

ま え が き

本書は、CLMV開発展望研究事業の一環として実施された「ASEAN加盟下のカンボジア」(平成14年度)と「ASEAN加盟後のカンボジアの社会経済変容」(平成15年度)(いずれも天川直子主査)の2カ年にわたる研究活動の成果である。

本書の特徴は、所収論文がすべて、執筆者自身による現地での聞き取り調査や標本調査に基づいて執筆されていることである。编者としては、まずは、各執筆者の精力的な調査研究活動への取り組みに対して深い敬意を表したい。

当然のことながら、各論文の基礎となる各種調査は、カンボジア側の協力なしにはなしえなかった。プノンペン王立大学社会学部、仏教研究所、カンボジア開発資源研究所、リーダー・クメールからは、調査許可の取り付けやアレンジ、現地補助、補足調査の実施、調査データの入力など、多大な協力を受けた。また、非常に多くのカンボジアの人々が、企業、農村、学校などで調査者を快く受け入れてくれ、時間を割いて答えてくださった。こうしたすべてのカンボジアの人々に感謝したい。

本書所収の論文は「変化」に焦点を当てている。縫製企業の実態をあつかった第1章(山形論文)は1990年代半ばから急拡大した縫製業の実態を明らかにしている。第2章(坂梨論文)は、首都プノンペンの高校生という社会変化を先取りしていくような社会集団を調査対象としている。第3章(四本論文)は、国際社会への復帰がもたらした社会問題が、カンボジアの為政者達の問題意識を変えていく様を描いている。第4章(荒神論文)と第7章(高橋論文)が扱っている農村部絹織物業と母子保健は、それぞれ、カンボジアが国際社会に復帰するや否や諸外国の支援対象となった分野である。第5章(小林論文)と第6章(天川論文)は、カンボジアの農村が今後の経済開発過程で直面する社会経済変容を先取りするような、都市部にアクセスのよい農村部を調

査地としている。

このように、本書が描き出した景色は、カンボジアのなかでも変化しつつあるカンボジアの最先端である。近年のカンボジアが経験した変化のダイナミズムを、読者に多少なりとも伝えることができれば本望である。

2004年10月

編 者